



検査項目の説明書



- この説明書は、皆様の検査データに関する疑問を少しでも解消するために作成致しました。お役に立てれば幸いです。
- 報告書に記載されている基準値は青森市民病院のもので、基準値とは健常人の95%が含まれる下限値と上限値の範囲の値であり、この値をはずれたものが即疾患の有無を示すものではありません。また測定した医療機関によって基準値は若干異なります。
- 血液検査の結果は、年齢や性別、食事、運動などの条件で変動します。検査結果の詳細や、ここに掲載された項目以外のものにつきましては、直接担当医にお尋ね下さい。

| | 項目名 | 訳語 | 説明 |
|-----|-------|----------|---|
| 尿検査 | 比重 | 比重 | 腎臓の尿濃縮力を示します。脱水や水分の摂取状態により変動します。 |
| | pH | pH | 通常の尿は弱酸性です。体液のバランスを正常に保つために過剰な酸やアルカリを排泄すると変動します。食餌や運動によっても若干変動します。 |
| | 蛋白 | 尿蛋白 | 腎機能に障害があると、尿中に蛋白が漏れ出て尿蛋白(+)となります。運動後やストレスなどでも(+)になることがあります。 |
| | ブドウ糖 | 尿糖 | 高血糖、腎機能障害で(+)になります。運動後やストレスでも(+)になることがあります。 |
| | ウロビリ | ウロビリノーゲン | 正常の結果は(±)です。肝、胆道、溶血性疾患の場合変動します。 |
| | ケトン体 | ケトン体 | 糖分の補給が少なく、脂質をエネルギー源として使われた場合に尿中に増加します。糖尿病の悪化や嘔吐、下痢、妊娠悪阻、妊娠中毒症などで(+)になります。 |
| | ビリルビン | ビリルビン | 黄疸の際に尿中に出てきます。 |
| | 潜血 | 潜血 | 肉眼では見えないわずかな血尿の状態を「潜血」といい、腎臓から尿道までの出血の有無がわかります。 |
| | 白血球 | 白血球 | 尿路感染症、尿路の炎症で(+)になります。 |
| | 亜硝酸塩 | 亜硝酸塩 | 細菌尿であれば(+)になります。細菌の種類や検査するまでの時間によっては(-)となることがあります。 |
| 便検査 | 便潜血 | 便潜血 | 消化管からの出血の有無を調べる検査で、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、大腸ガンでも陽性となるほか、痔などで出血しているときにも陽性になります。 |

| | | | |
|----|-----------|-------------------------|--|
| 肝臓 | LD(IFCC) | 乳酸脱水素酵素 | 様々な臓器に存在している酵素であり特に肝細胞の障害などで増加します。 |
| | AST(GOT) | アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ | 肝細胞や心筋に多く含まれている酵素です。肝障害、心筋梗塞などで増加します。 |
| | ALT(GPT) | アラニンアミノトランスフェラーゼ | 肝疾患や胆道の疾患で増加します。肝障害の際、ASTよりも特異的に増加します。 |
| | ALP(IFCC) | アルカリホスファターゼ | 肝、胆道系の疾患、骨疾患で増加します。成長期の小児は高いことがあります。 |
| | T-Bil | 総ビリルビン | ビリルビンは胆汁の主な色素です。増加すると黄疸になります。 |
| | D-Bil | 直接ビリルビン | 肝臓で処理されたあとのビリルビンです。 |
| | γ-GTP | γ-グルタミルトランスアミノトランスフェラーゼ | 肝疾患や胆道の疾患で増加します。アルコール性肝障害や飲酒などで増加します。 |
| | CHE | コリンエステラーゼ | 肝機能を反映します。肝硬変などで低下し脂肪肝で増加します。 |
| | アンモニア | アンモニア | 肝臓で分解されるため、肝臓での処理能力が傷害されると高くなります。 |

| | | | |
|----------|-----------|---------------|---|
| 心臓 | CK | クレアチンキナーゼ | 心筋や骨格筋などの疾患の診断や経過の判断に用います。運動によっても高くなります。 |
| | CK-Mb | クレアチンキナーゼ-MB | 心筋に多く含まれる酵素です。心筋梗塞などで増加します。 |
| | Myoglobin | ミオグロビン | 筋組織が壊されると血液中に増加します。 |
| | BNP | 脳性ナトリウム利尿ペプチド | 主に心不全の重症度や治療効果を判定するために検査します。 |
| 膵臓 | AMY(S) | アミラーゼ(血清) | 膵臓や唾液腺に含まれる酵素です。膵臓や唾液腺の障害で高くなります。 |
| | Lipase | リパーゼ | 膵臓に含まれる酵素です。膵臓の障害で高くなります。 |
| 蛋白 | TP | 総蛋白 | すべての蛋白質の総量です。栄養摂取や吸収の状態がわかります。 |
| | Alb | 血清アルブミン | 総蛋白の50~70%を占める蛋白質です。肝臓や腎臓の機能が低下すると低くなります。 |
| 腎臓 | UN | 尿素窒素 | 腎臓の機能が悪くなると増加します。 |
| | CRE | 血漬クレアチニン | 腎臓の機能が悪くなると増加します。 |
| 電解質 | Cl | 塩素 | 血液中の電解質の検査です。水分の調節がうまくいかなかったり様々な疾患でバランスが崩れると、高くなったり低くなったりします。 |
| | Na | ナトリウム | |
| | K | カリウム | |
| | Ca | カルシウム | 骨や歯に大量に含まれています。副甲状腺や腎臓の疾患で増減します。 |
| | IP | 無機リン | 骨や歯に大量に含まれています。副甲状腺や腎臓の疾患で増減します。 |
| 脂質 | Mg | マグネシウム | 骨や歯に大量に含まれています。カルシウムとともに心臓、血管の動きに重要な役割を果たします。 |
| | T-Cho | 総コレステロール | 血液中のコレステロールの総量です。多すぎると動脈硬化などの生活習慣病の原因になります。 |
| | HDL-C | HDL-コレステロール | 善玉コレステロールとも呼ばれ動脈硬化を防ぐ働きをします。 |
| | LDL-C | LDL-コレステロール | 悪玉コレステロールともよばれ動脈硬化を引き起こす原因のひとつになります。 |
| 代謝 | TG | 中性脂肪 | 多すぎると動脈硬化などの生活習慣病の原因になります。食後は高くなります。 |
| | UA | 血清尿酸 | 核酸構成成分のプリン体が分解されてできた老廃物です。痛風や腎臓病、生活習慣病などの検査として測定します。 |
| 鉄代謝 | Fe | 血清鉄 | 貧血の程度や種類がわかります。鉄欠乏性貧血では低くなります。 |
| | UIBC | 不飽和鉄結合能 | 貧血の程度や種類がわかります。 |
| | Ferritin | フェリチン | 鉄分を貯めることのできる蛋白です。からだに貯めてある鉄の量がわかります。 |
| 糖代謝 | 血糖 | 血糖、ブドウ糖 | 糖代謝の指標となります。食事の影響を受けます。 |
| | HbA1c | ヘモグロビンA1c | 血糖コントロールの指標となります。1~2ヶ月前の平均的な血糖の値を反映します。 |
| | グリコアルブミン | グリコアルブミン | 血糖コントロールの指標となります。過去2週間くらいの血糖の値を反映します。 |
| | IRI | 血中インスリン | 血糖値を下げるインスリンの血中濃度を検査しています。 |
| 炎症反応関連検査 | 血沈 | 赤血球沈降速度 | 代表的な炎症マーカーです。貧血のときも上昇します。 |
| | CRP | C反応性蛋白 | 炎症や組織の破壊で増加する蛋白質です。 |
| | プロカルシトニン | プロカルシトニン | 主に細菌性敗血症の早期診断やリスク判定のために検査し、全身性感染症により上昇します。 |
| 免疫 | IgG | 免疫グロブリンG | 細菌やウイルスなどに対する防御機能や免疫異常の指標となります。 |
| | IgA | 免疫グロブリンA | |
| | IgM | 免疫グロブリンM | |

| | | | |
|------|--------------------------|---|--|
| 血液検査 | WBC | 白血球数 | 炎症性疾患や血液疾患などで増減し、その診断や加療後の経過観察に必要な検査です。 |
| | RBC HGB HCT | 赤血球数 ヘモグロビン濃度 ヘマトクリット値 | 全身に酸素を運搬します。これらの項目は様々な貧血症で減少し、多血症では増加します。 |
| | MCV | 平均赤血球容積 | これらの項目は赤血球の大きさ、赤血球中に含まれるヘモグロビンの量や濃度を調べる検査です。貧血症の種類を鑑別するために必要な検査です。 |
| | MCH MCHC | 平均赤血球ヘモグロビン量 平均赤血球ヘモグロビン濃度 | |
| | PLT | 血小板数 | |
| | Neutro | 好中球 | 生体防御に関与し、一般に細菌感染症や炎症などで増加します。 |
| | EOS | 好酸球 | 主にアレルギー疾患で増加します。 |
| | Baso | 好塩基球 | 主にアレルギー疾患で増加します。 |
| | Mon | 単球 | 殺菌作用、血球や異物の処理、免疫反応など多彩な機能があり、様々な疾患で増減します。 |
| | Ly | リンパ球 | 生体防御に関与し、一般にウイルス感染症やリンパ球性の血液疾患などで増加します。 |
| 凝固検査 | PT 時間 PT 活性 PT-INR | プロトロンビン時間 プロトロンビン活性 プロトロンビン-国際標準比 | 血液の凝固異常を調べる検査です。ワーファリン治療時に薬の量を調節するために測定します。肝機能の悪いときも異常値となるため、肝機能の指標にもなります。 |
| | APTT | 活性部分トロンボプラスチン時間 | 血液の凝固異常を調べる検査です。 |
| | Fbg | フィブリノゲン | 止血に必要な凝固因子です。一般に感染症や炎症で増加します。 |
| | AT-Ⅲ | アンチトロンビンⅢ | 必要以上に血栓が形成されるのを阻害する為のものです。低下すると血栓（血の塊）ができやすくなります。 |
| | FDP | フィブリン体分解産物 | 主に血栓性疾患で上昇します。血栓形成の指標や、血栓を溶かす治療効果の判定にも利用されます。 |
| | D-D dimer | Dダイマー | |

※腫瘍マーカーについては、がん以外の良性的疾患や加齢に伴って高値を示すものも存在するため、検査結果の解釈・判断につきましては担当医にご相談下さい。他の検査に比べ、時間がかかります。

| | | | |
|--------|---------|---------------|---|
| 腫瘍マーカー | CEA | 癌胎児性抗原 | 消化器系や肺など腫瘍全般で上昇し、治療の経過観察としても検査します。また喫煙や加齢でも上昇します。 |
| | AFP | αフェトプロテイン | 肝臓の腫瘍を示唆する腫瘍マーカーとして検査します。肝疾患以外に妊娠などでも高値を示します。 |
| | CA19-9 | 癌抗原 19-9 | 主に膵臓癌で上昇します。良性疾病（肝胆膵疾患や婦人科疾患、糖尿病）でも上昇することがあります。 |
| | PSA | 前立腺特異抗原 | 主に前立腺癌で高値を示しますが、前立腺肥大症や前立腺炎、加齢などでも上昇します。 |
| | CA15-3 | 癌抗原 15-3 | 主に乳癌で高値を示します。 |
| | CA125 | 癌抗原 125 | 卵巣癌などで高値を示します。 |
| 甲状腺 | FreeT3 | 遊離型トリヨードサイロニン | 代謝の調節に必要なホルモンを検査しており、甲状腺に関する様々な疾患で高値、または低値を示します。また多すぎると疲労や動悸、少なすぎると無気力、徐脈などの症状が出ることがあります。 |
| | FreeT4 | 遊離型サイロキシン | |
| | TSH | 甲状腺刺激ホルモン | |
| | HCG (S) | ヒト絨毛性ゴナドトロピン | 妊娠、子宮外妊娠で高値を示します。 |

| 項目名 | 説明 | 所要時間 |
|---------------------|---|----------------|
| 心電図 (ECG) | 心臓の電気的活動を記録する検査です。胸と両手首・両足首に電極をつけます。主に不整脈などがわかります。 | 約5分 |
| ホルター心電図 (24時間心電図) | 1日(24時間)分の心電図を記録する検査です。胸に機器をつけたまま1日過ごしてもらいます。 | 装着に約15分 |
| マスター負荷心電図 | 運動負荷による心電図変化を見る検査です。リズムにあわせて2段の階段を昇降したあと、経時的に心電図を記録します。負荷量は患者さんの体格等によって異なります。 | 約20分 |
| 起立試験 | 身体機能を調節している自律神経による起立後の循環動態を見る検査です。10分間起立する前と後で心電図と血圧を測定し、比較します。 | 約15分 |
| 自律神経機能検査 (CV R-R) | 主に糖尿病による自律神経障害の有無を調べる検査です。10分間安静にした後と1分間の深呼吸時の心電図をそれぞれ記録し比較します。 | 約15分 |
| 血圧脈波検査 (ABI) | 動脈硬化の程度を評価する検査です。ベッドに仰向けになり両上腕と両足首の計4ヶ所に血圧測定のカフを巻き血圧と脈波を測定します。 | 約10分 |
| 肺機能検査 | 息を吸ったり吐いたりして、肺の大きさや息を吐く勢いを調べます。鼻をクリップでつまんで空気が漏れないようにし、マウスピースをくわえて行います。 | 約5分~10分 |
| 指尖容積脈波 | 手または足の指先の血流や血管の状態を、それぞれの指について観察します。 | 約30分 |
| 脳波検査 | 頭部に装着した電極から得られる波形で脳の電気的活動を記録します。閉眼安静時、睡眠、深呼吸、光刺激などの検査を行います。 | 1時間~ 1時間30分 |
| 神経伝導検査 (MCV) | 手や足に電気的な刺激を与えて神経の反応をみる検査です。神経障害や知覚異常などを調べます。 | 15~30分 |
| 24時間血圧測定 (24ABPM) | 携帯型血圧計を用い、24時間血圧を測定します。生活リズムやストレスで血圧は変化するため、日内変動パターンを調べる検査です。 | 装着に約10分 |
| 頸動脈超音波検査 (頸動脈エコー) | 首にある左右の頸動脈を、超音波を用いて検査します。血管の動脈硬化や血栓などを観察します。 | 約30分 |
| 甲状腺超音波検査 (甲状腺エコー) | 首にあるホルモンを出す甲状腺という臓器を、超音波を用いて検査します。甲状腺の大きさや性状、内部の構造を観察します。 | 約30分 |
| 心臓超音波検査 (心エコー) | 胸部に機器をあて、超音波を用いて心臓の大きさや心筋の動き、弁の様子を観察します。 | 約30分 |
| 腹部超音波検査 (腹部エコー) | 腹部に機器をあて、超音波を用いて肝臓・膵臓・腎臓・脾臓・胆嚢などを観察します。 | 約30分 |
| 胎児超音波検査 (胎児エコー) | お母さんの腹部に機器をあて、超音波を用いてお腹の中の赤ちゃんをみる検査です。子宮内の状態や胎児の発育・臓器・様子を観察します。 | 約20~30分 |
| 下肢静脈超音波検査 (下肢静脈エコー) | 太ももの付け根から足首まで、両足の静脈を超音波の機器をあて検査します。足の静脈の逆流や血栓などを観察します。 | 約1時間30分 |